サステナビリティ報告書 2026

Sustainability Report 2026

ウェルネオシュガー株式会社

トップメッセージ

基　本　方　針

サステナビリティ経営の深化に向けて
～「サステナブル・ビジョン2030」を軸としたグループ一体での価値創造の推進～

ウェルネオシュガー株式会社
代表取締役会長　仲野 真司
（サステナビリティ推進委員長）

統合を成長の機会として、次のステージへ

ウェルネオシュガーグループは、2024年10月の日新製糖と伊藤忠製糖との完全統合を皮切りに、2025年10月の第一糖業との合併、2026年10月の東洋精糖との合併によって、事業基盤を着実に拡大しており、規模拡大と同時に一体感の醸成と生産性の向上に務め、次なる成長段階へと歩みを進めております。
こうした統合の歩みは、私たちにとって大きな成長機会であると同時に、社会から寄せられる期待と信頼に対して、これまで以上に真摯に向き合う責任を伴うものでもあります。
ウェルネオシュガーは、砂糖業界のリーディングカンパニーの一翼を担う企業として、社会の変化やステークホルダーの皆さまからの期待を真正面から受け止め、持続可能な社会の実現に向け、選ばれる企業であり続けるための責任ある取組みを着実に進めてまいります。

生存戦略としてのサステナビリティ経営

ウェルネオシュガーグループでは、サステナビリティ経営を事業の持続可能性と成長を支える根幹と捉え、マテリアリティに正対すること自体が、まさに当社グループの生き残り戦略であると考えて、中期経営計画の重点戦略の一つに据えております。

バリューチェーンの人権尊重、環境負荷低減、安全・安心の追求、地域社会との共生といった重要課題に対して誠実に向き合い、社会課題の解決と企業価値向上の両立を図ってまいります。そして、私たちは主力の精製糖事業だけでなく、機能性素材によるフードサイエンス事業、フィットネス事業などを通じて、グループの総力を挙げて「おいしさと健康」を軸とした社会的価値創出に挑み、持続的な成長を目指してまいります。

また、従業員の内発的動機と企業として追求すべき価値の統合を図る地道な取組みの中に、私たちが目指すサステナビリティ経営の本質があるとの考えから、経営理念とマテリアリティを融合するサステナビリティ経営の設計図として策定した「サステナブル・ビジョン2030」の下、メンバーの主体性を重視する全社横断活動をベースに各種課題への取組みを推進しております。

「サステナブル・ビジョン2030」の実現に向けて

「サステナブル・ビジョン2030」では、特定された5つのマテリアリティについて、2030年度のあるべき姿をKGIとして掲げ、そのKGI実現に向けた中期目標やアクションプラン、KPI等を一覧的に整理し、公開しております。

ウェルネオシュガーグループでは、この「サステナブル・ビジョン2030」を、サステナビリティ経営について役員・従業員の理解と共感を育む羅針盤として位置づけ、社会環境や事業環境が大きく変化する中で、守りの観点にとどまらず、未来に向けた成長の原動力として、グループ一丸となって一つひとつの取組みを積み重ねてまいります。

とくに、持続可能な社会の実現に向けた課題への対応として、グローバルな取組みと歩調を合わせながら、バリューチェーンにおける人権リスクの低減や温室効果ガス排出量削減に向けた取組みを加速し、社会的責任を果たしていく所存です。

「手挙げ制」を取り入れた分科会による全社横断活動

2025年1月、サステナビリティ推進委員会の傘下に、マテリアリティ毎に5つの分科会を設置し、分科会活動を展開しております。各分科会のメンバーは、マテリアリティと関係の深い部署に加えて、活動に関心を持つ従業員が組織や階層の垣根を越えて自由に参画できる「手挙げ制」で募集し、幅広い視点と主体的なエネルギーを採り入れております。分科会では、部署や立場を越えて課題解決に向けた自由闊達な意見交換が生まれ、実際に新たな施策として実施された事例もあり、現場発で改善を進めていく流れを生み出しております。

さらに、会社をボトムアップで良くしていこうとする当事者意識を育む基盤にもつながっており、多様な視点を取り込みながら、現場に根差した実践を積み重ねていくことも、サステナビリティ経営の実効性を高めていくうえで重要と考えております。

ステークホルダーの皆さまへ

本報告書では、ウェルネオシュガーグループのサステナビリティ経営における、現場に根差した幅広い取組みの一部をご紹介しております。本報告書を通じて、ウェルネオシュガーグループのサステナビリティ経営へのご理解を深めていただく一助となれば幸いです。

今後も、皆さまのご支援を賜りながら、対話と協働を大切にし、社会課題の解決と持続可能な社会の実現にともに歩んでまいります。

サステナビリティ基本方針

私たちウェルネオシュガーグループは、サステナビリティ経営の推進は、それ自体が企業の持続可能性と経営品質の向上につながるものと考えています。
当社グループは、これまでに社会課題および事業上の課題を抽出したうえで５つのマテリアリティを特定し、それぞれのKGIおよび2030年度中期目標を設定いたしました。「公正で透明性の高い経営」「事業を通じたステークホルダーへの貢献」「お客様への満足と安心の提供」といった健全な企業姿勢を貫きながら、マテリアリティに対して真摯に向き合い、サステナビリティに関する活動に取り組んでまいります。
2025年５月、マテリアリティに基づく2030年度までの中期的な行動目標として「サステナブル・ビジョン2030」を策定いたしました。これを、サステナビリティ経営について役員・従業員の理解と共感を育む羅針盤として位置づけ、バリューチェーン上の人権侵害リスクの低減、温室効果ガスの排出量削減等に関するアクションプランや目標を掲げて、当社グループが一丸となって社会課題の解決に向けて取り組みます。このように、環境や社会に対する責任を自覚して各種社会課題に向き合いながら、皆さまと共に持続可能な社会の実現と企業価値の向上を目指してまいります。

サステナビリティ推進体制

当社は、代表取締役を委員長、執行役員を主要メンバーとする委員で構成する「サステナビリティ推進委員会」を設置し、社会課題（ESG関連事項等）の解決に向けて、全社的に取り組む体制を構築しています。当委員会は経営会議の諮問機関として位置付けられており、サステナビリティ推進にかかる取組状況を適宜、経営会議に報告するほか、重要事項について経営会議に答申します。当該重要事項は、経営会議において審議・決定されますが、取締役会に上程すべき経営上の重要な事項については、経営会議で審議・検討の上、取締役会に付議され、取締役会において審議・決定されます。
サステナビリティ推進委員会に求められる役割は、当社の事業活動を通じて、持続可能な社会の実現および企業価値の向上を図ることであり、当委員会は、サステナビリティ推進に関する全社方針、中長期目標、重要施策等の審議・検討、および各分科会の活動状況、各種施策の進捗についてモニタリングを行います。
なお、これらの取組みの実効性を高めるため、サステナビリティ推進委員会の傘下に、各マテリアリティに対応する5つの分科会を設置し、各分野の担当組織のメンバーおよび手挙げメンバーが幅広く参画して、全社横断的な活動を展開しています。
また、当委員会と「コンプライアンス委員会」、「リスク管理委員会」を有機的に連動させることでガバナンス体制を強化し、社会からの信頼に応えられるよう務めてまいります。

マテリアリティの特定および考え方

ステップ❶ 各種課題の抽出・分類

ウェルネオシュガーグループと社会にとっての課題を抽出。社会課題に対する情報収集、
各部へのヒアリング、パーパス・事業戦略等を踏まえた課題抽出を実施し、テーマ別に分類。

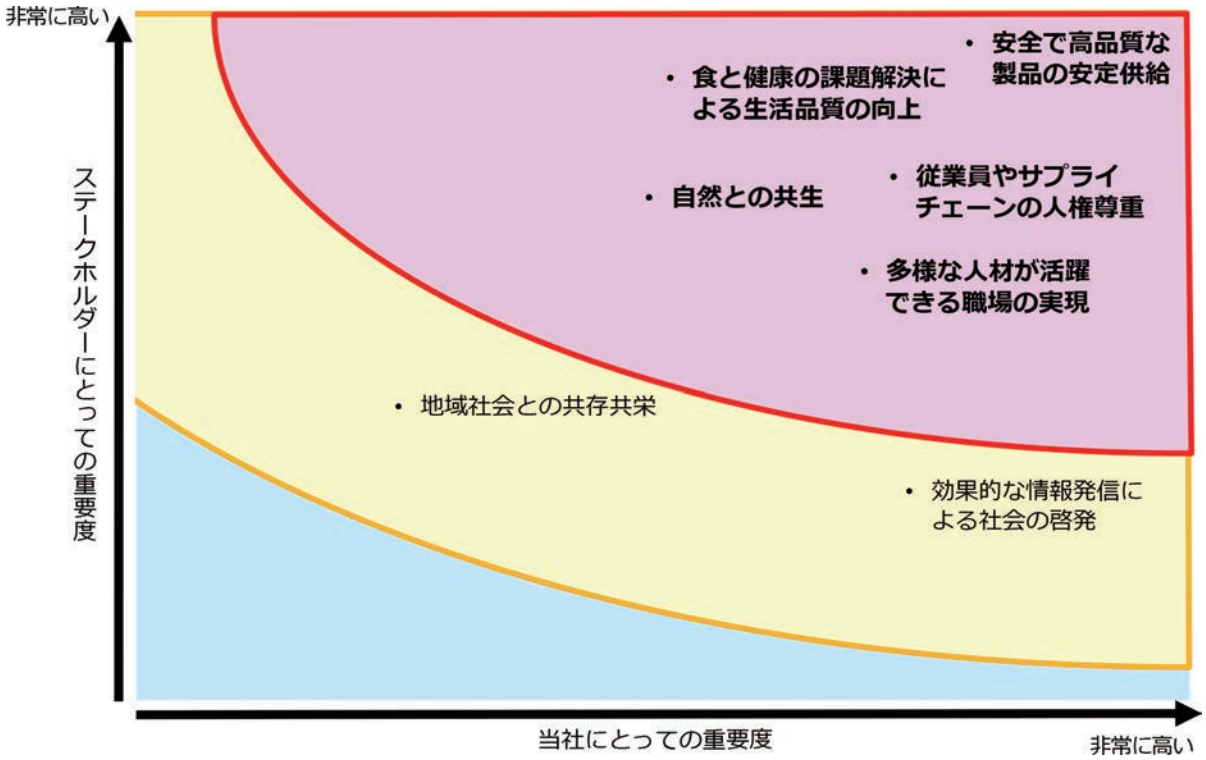
ステップ❷ 重要度分析・妥当性確認

当社の経営理念や財務情報を紐付け、当社にとっての重要度を分析。
また、社外有識者へのヒアリングを通じてステークホルダーにとっての重要度を分析。
それぞれの重要度について、当社経営陣・社外有識者によって妥当性を確認。

ステップ❸ マッピングおよびマテリアリティの特定

ステップ②の分析を元に以下マッピングを行い、マテリアリティを特定。特定したマテリアリティは、
サステナビリティ推進委員会および経営会議による審議のうえ、取締役会による承認を得た。

＜ステークホルダーおよび自社の視点から優先度検討＞



サステナブル・ビジョン 2030

ウェルネオシュガーグループ　サステナブル・ビジョン 2030

SUSTAINABLE VISION 2030

パーパス〈存在意義〉	ビジョン〈目指す姿〉	バリュー〈行動基準〉
PURPOSE	VISION	VALUES
糖のチカラと可能性を切り拓き“Well-being”を実現する	Corporate Message 心と体に「いいね」を	挑戦・多様性・持続可能性

※Scope1,2、対象範囲：ウェルネオシュガー㈱、2013年度比

（つづく）

サステナブル・ビジョン 2030

5つのマテリアリティ
5 MATERIALITIES

食と健康の
課題解決による
生活品質の向上

KGI　おいしさと健康の両立に役立つ製品・サービスの提供によって
消費者の“Well-being”に貢献

中期目標（2030年度）
- おいしさと健康に貢献する食品への採用
- 健康寿命延伸に資する共同研究の推進、特許出願
- 砂糖に関する正しい情報を楽しく伝え、理解を促進する活動
- セミナーや展示会等で、食を通じた 健康への取組みを紹介

多様な人材が
活躍できる
職場の実現

KGI　職場環境の整備やエンゲージメント向上施策を通じて
従業員の“Well-being”を実現

中期目標（2030年度）
- 挑戦実践度100%
- 新規採用者の入社後3年間の定着率100%
- 女性管理職比率25%以上
- 男女賃金格差の是正
- 育児・介護休業取得満足率100%
- 有給休暇取得満足率100%
- 健康経営優良法人「ホワイト500」の認定取得
- 働きがい・働きやすさスコア4.0点以上（5点満点）

安全で
高品質な
製品の安定供給

KGI　安全で高品質な製品の安定供給によって
お客様の“Well-being”を実現

中期目標（2030年度）
- 食中毒等の重篤な健康危害発生ゼロ継続
- 品質管理体制向上のための継続した人材教育（FSSC22000内部監査員資格取得）
- お客様満足度調査の実施と調査結果の公表（一般消費者でご指摘をいただいた方を対象）

従業員や
サプライチェーンの
人権尊重

KGI　ステークホルダーとの対話を通じて
サプライチェーン全体の“Well-being”を実現

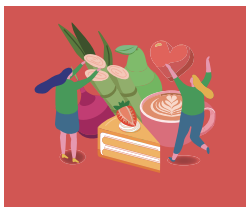
中期目標（2030年度）
- サプライチェーンの“Well-being”を守るための人権デューデリジェンスの実施
- サステナブル調達アンケート回収率 90%以上（一次サプライヤーを対象、隔年実施）
- 国内原料糖メーカーやサトウキビ・てん菜生産者との相互理解の活動（2回/年）

未来へつながる
自然との共生

KGI　気候変動対策・資源の有効利用を通じて
自然環境の“Well-being”に貢献

中期目標（2030年度）
- 2050年度 カーボンニュートラル達成
- 2030年度 Scope1,2におけるCO2排出量46%削減
（対象範囲：ウェルネオシュガー㈱、2013年度比）
- プラスチック使用量50%削減　（対象範囲：ウェルネオシュガー㈱、2013年度比）
- 廃棄物量の削減とリサイクル率98%以上の水準維持
- 物流における環境負荷を考慮した最適化の検討・実行
- 水資源使用量（生産量比）低減に向けた調査

活　動　報　告



食と健康の課題解決による生活品質の向上

おいしさと健康の両立に役立つ製品・サービスの提供によって消費者の“Well-being”に貢献

砂糖は、豊かな食生活を支える素材として、自然由来の良質な栄養源として、世代を超えて多くの人びとに愛されてきました。一方で、砂糖は口腔内では歯垢の原因になったり、過剰摂取によって健康へ悪影響を及ぼしたりすることがあります。そこで、当社は、砂糖を扱う企業として砂糖に関する課題にも向き合うことで、おいしさという本来の価値を提供すると同時に、健康課題や正しい知識の普及にも取り組み、消費者の“Well-being”に貢献したいと考えています。

2030年度目標：おいしさと健康に貢献する食品への採用

共同研究、ヒトやペットなどの食品への採用

フローラデザインカンパニーとして、糖を起点とした研究開発を推し進め、各食品メーカー様に健康に寄与できる新たな価値をお届けする活動を活発化させています。口腔ケアから腸内フローラ改善までを当社機能性3素材（CI、カップオリゴ、ケストース）のエビデンスベースによる確かなご提案をさせていただいた結果、数多くのご採用案件を獲得できました。カップオリゴ、ケストースはさわやかな甘味を備えたオリゴ糖として、また新糖質であるCI（サイクロデキストラン）は、砂糖と併用しても効果があることで従来通りのおいしさをお届けすることができます。まさに、新規糖質の研究を活かした“おいしさと健康”を両立する提案を実現し、価値をお届けする活動を継続していきます。
CIは歯垢の形成を抑えるユニークな機能を有する環状オリゴ糖として多くの引き合いをいただいており、需要拡大に対応するため、2026年3月に千葉工場（千葉市美浜区）に生産設備を新設し、生産体制を強化しました。
2026年4月にはCIを使用した機能性表示食品の届出が消費者庁に受理され、より多くのお客様のご要望に応えることができるようになりました。

2030年度目標：セミナーや展示会等で、食を通じた健康への取組みを紹介

機能性糖質の啓発

各種展示会に出展し、サステナビリティ推進活動のボードを掲示しました。また、セミナー等を通じてCI、ガラクトオリゴ糖、ケストースなどの機能性食品成分による健康増進への取組みを紹介しました。

		セミナー名
2025年4月	健康原料・OEM展	歯垢を防ぐ“CI”で実現する新たなオーラルケア
		高性能プレバイオティクス素材“ケストース”で効率的な腸活サポート
2025年5月	ifia JAPAN 2025	お口ではたらき歯垢を防ぐオリゴ糖“CI”
		高性能プレバイオティクス素材“ケストース”で効率的な腸活サポート
2025年10月	食品開発展	お口ではたらき歯垢を防ぐオリゴ糖“CI”
		手軽に腸活を　ウェルネオシュガーのガラクトオリゴ
2026年2月	健康博覧会	世界で唯一、お口で働く環状オリゴ糖“CI”が切り開く、オーラルケアの新常識！

2030年度目標：砂糖に関する正しい情報を楽しく伝え、理解を促進する活動

2025年度は、サステナビリティ推進分科会の発足を契機として、これまでのような限られた部署での運営から、多くの社員が関わることにより、実施回数や開催箇所も拡大、大きな転機となった1年となりました。

イベント等への出展

8月に当社も会員である和食文化国民会議が主催する夏休み食育イベント「子ども和食セッション」に「さとう」ブースを出展、「お砂糖の調理での役割」を美味しく楽しく伝えるため、砂糖の温度による変化を見るべっこう飴づくり、多種多様な砂糖の味と使い方を体感する砂糖の食べ比べ、砂糖の分量の違いによる膨らみや焼き色の変化を見て触れるスポンジケーキの展示などを行いました。

小学校での食育授業

当社では、砂糖を正しく理解し、上手に使っていただくためには、親子、特にお子様に砂糖に関する情報を伝えていくことが大切であると考えています。毎年継続してきた小学生を対象にした砂糖についての食育授業は、東京都葛飾区立松上小学校5年生と東京都東大和市立第四小学校5年生の2校で実施。甘さだけではない砂糖の機能を、おせちや節分など時節にあわせた例を用いながら説明したほか、砂糖のできるまで、砂糖の種類と食べ比べ、砂糖と肥満や虫歯との関係など、楽しく学んで印象に残るよう、工夫をこらした授業を行っています。

2030年度目標：健康寿命延伸に資する共同研究の促進、特許出願

砂糖は、おいしさや食品加工上の機能を通じて、豊かな食生活を支える重要な素材です。一方で、口腔衛生などの観点からは、健康面への配慮が求められる側面もあります。当社は、砂糖を扱う企業として、砂糖の価値を活かしながら、こうした健康面の懸念に向き合う研究開発を進めることが、持続可能な食生活の実現につながると考えています。
2025年度は、CI（サイクロデキストラン）に関する研究成果として、砂糖とCIの組み合わせによる歯垢形成抑制の相乗効果について特許登録されました。この成果は、砂糖を含む食品においても、嗜好性を保ちながら口腔環境に配慮した設計につながる可能性を示すものです。また、CIの研究成果はヒトの口腔環境に限らず、犬や猫のオーラルケアなどペットヘルス領域にも展開しています。これらの成果を通じて、当社はヒトと動物の健康維持に資する機能性素材の開発を進めています。

2025年度実績：特許出願13件、特許登録4件、論文公開6報

※同一発明に基づく出願の重複を避けて集計しています。

区分	特許番号	主な内容	サステナビリティとの関係
特許登録	特許第7640771号	砂糖（スクロース）とCI（サイクロデキストラン）の組み合わせによる歯垢形成抑制の相乗効果に関する技術	砂糖を含む食品において、嗜好性を保ちながら口腔環境に配慮した商品設計につながる可能性を示す発明
特許登録	特許第7588928号	*Porphyromonas gulae*に着目した、犬または猫用のオーラルケア組成物等に関する技術	ペットの口腔健康維持に貢献する素材活用の可能性を示すものであり、コンパニオンアニマルの健康寿命やQOL向上に資する発明

※*Porphyromonas gulae*：犬や猫の歯周病に関与することが知られている細菌

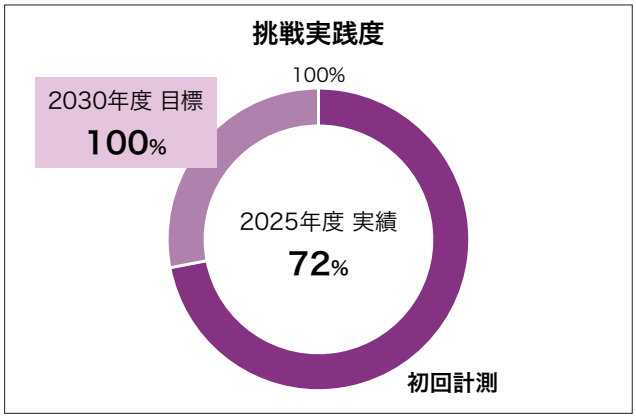
多様な人材が活躍できる職場の実現

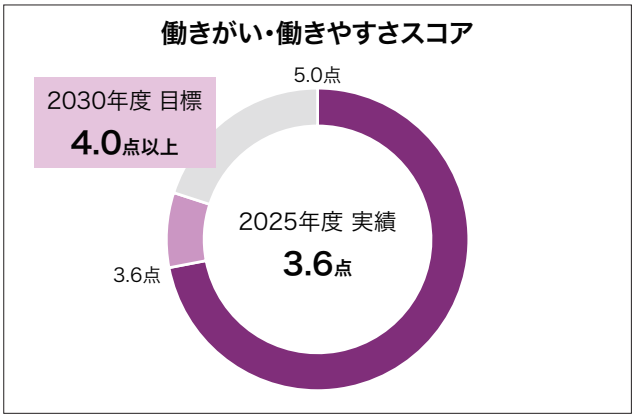
職場環境の整備やエンゲージメント向上施策を
通じて従業員の“Well-being”を実現

ウェルネオシュガーグループは、従業員一人ひとりの多様性を尊重し、その能力を最大限に発揮できる環境づくりが、持続的な成長の基盤であると考えています。あわせて、誰もが健やかに安心して働ける安全で働きやすい職場環境を整備しており、さらに、多様な人材がいきいきと活躍できるよう、各種制度や研修を通じて継続的な成長を支援しています。

2030年度中期目標：挑戦実践度100%、働きがい・働きやすさスコア4.0点以上（5点満点）

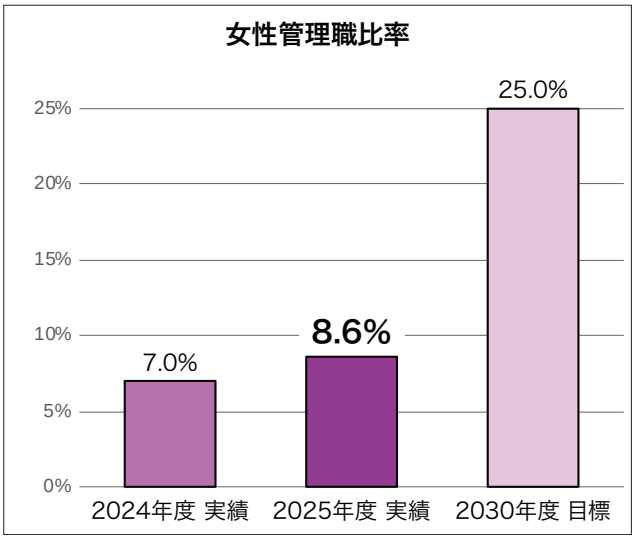
当社は、従業員の“Well-being”実現に向け、当社独自指標である「挑戦実践度」および「働きがい・働きやすさスコア」を中期目標として設定し、エンゲージメントサーベイにより継続的にモニタリングしています。2025年度は、挑戦実践度72%、働きがい・働きやすさスコア3.6点となり、さらなる挑戦機会の拡大や心理的安全性の向上、職場環境の充実が必要であると認識しました。
また、働きがい・働きやすさ分科会の提案に基づき、従業員の声を通じて「挑戦」「多様性」「持続可能性」の浸透を図るために目安箱を設置しました。今後も、従業員の挑戦と働きがい・働きやすさの向上に取り組みます。





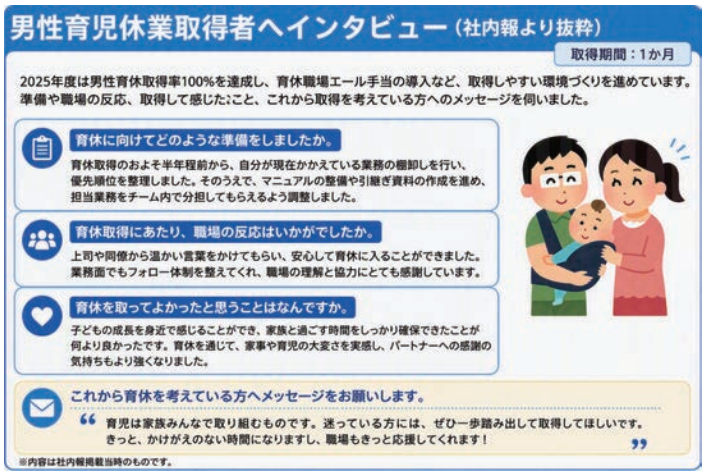
2030年度中期目標：女性管理職比率25%

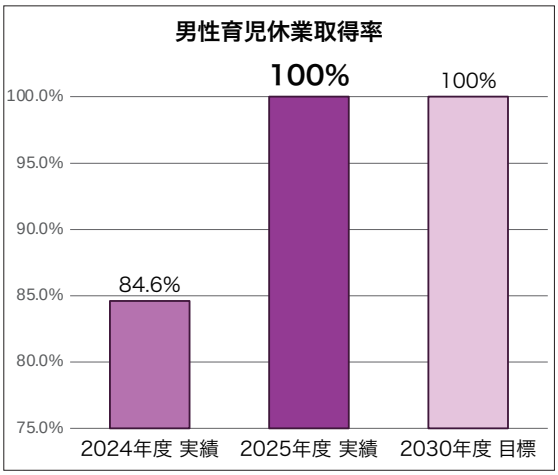
当社では、多様な人材を確保し、一人ひとりが活躍できる環境づくりを進めています。そこで、DE&I（多様性・公平性・包摂性）推進の一環として、社外から講師を招いて「マジョリティ特権」に関する研修を行い、多数派が無意識に得られている優位性や少数派にはじめから存在する不利な状況等についての理解を深めました。また、人員構成比率の低い女性の採用・登用を促進するとともに、キャリア採用者向けオンボーディングプログラムや社内公募制度を整備し、女性をはじめとする多様な人材の活躍機会を拡充しています。これらの取組みの結果、女性管理職比率は8.6%となりました。引き続き中核人材の多様性の確保と多様な人材の活躍を図り、当社グループの持続的な成長を目指していきます。



成果指標：男性育児休業取得率100%

当社は、ライフイベントを迎えた場合にも、従業員一人ひとりが安心して働き続けられる職場環境の整備に取り組んでいます。特に、育児・介護等と仕事の両立には職場の理解と支援が不可欠であり、分科会の提案を契機に、育児休業取得予定者が安心して休業できる環境づくりと、休業中の業務を担う従業員の貢献を評価することを目的に「育休職場エール手当」を導入しました。誰もが育児休業を取得しやすい環境整備を進めた結果、男性育休取得率は2024年度の84.6%から2025年度には100%となりました。





2030年度中期目標：健康経営優良法人「ホワイト500」の認定取得

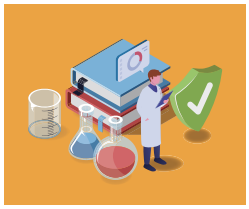
健康づくりの推進

ウェルネオシュガーグループは、従業員とその家族の健康が、企業の持続的成長の重要な基盤であるとの考えに基づき、「健康宣言」と「基本方針」を制定しています。また、サステナビリティ経営で掲げている5つのマテリアリティ（重要課題）のうち、「多様な人材が活躍できる職場の実現」には、健康経営の取組み・推進が不可欠であり、積極的に対策を講じて取り組んでいます。

健康経営：https://www.wellneo-sugar.co.jp/sustainability/health_declaration/

健康経営優良法人2026（大規模法人部門）認定

当社は、健康経営の取組みが評価され、経済産業省および日本健康会議が運営する健康経営優良法人認定制度において、「健康経営優良法人（大規模法人部門）」の認定を受けています。
当社はこれからも、本認定の上位500社を示す「ホワイト500」の認定を目指し、従業員が楽しくいきいきと働ける職場環境づくりに取り組みながら、健康維持・増進を支える制度や環境をさらに充実させることで、持続的に活力ある組織づくりを進めていきます。



安全で高品質な製品の安定供給

安全で高品質な製品の安定供給によって
お客様の“Well-being”を実現

ウェルネオシュガーグループで製造する砂糖は、国内外から調達した原料糖を原材料として使用しています。
産地により色などの性状が異なる原料糖から常に同じ品質の砂糖を製造するために、工場で徹底したプロセス管理を行うとともに、全社的な品質管理体制を整え、お客様に対し生活必需品である安全な砂糖を安定的に供給することで、社会的責任を果たしていきます。

品質方針

ウェルネオシュガーグループは、「安全」な製品とサービスの提供を通じて、「安心」をお客様にお届けすることで、お客様の満足と信頼を積み重ね、持続可能な社会の実現に貢献します。

品質方針：https://www.wellneo-sugar.co.jp/sustainability/quality_policy/

2030年度中期目標：食中毒等の重篤な健康危害発生ゼロ継続

2025年度において、当社グループでの食中毒等の重篤な健康危害の発生はゼロでした。国際規格のFSSC22000（食品安全マネジメント）などの認証を継続し、品質管理の徹底、継続的改善への取組みにより、安全な製品・サービスの提供に努めていきます。

中部工場	FSSC22000（食品安全マネジメント）	登録日：2012年4月19日
	ISO9001（品質マネジメント）	登録日：2002年8月23日
関西工場	FSSC22000（食品安全マネジメント）	登録日：2016年3月11日
九州工場	FSSC22000（食品安全マネジメント）	登録日：2021年4月9日

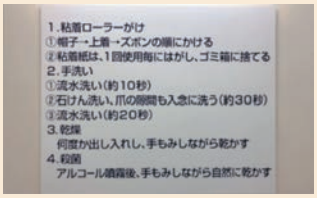
品質に関する情報開示の充実と透明性の向上

当社では、品質方針に基づき、安全・安心な製品づくりに向けた取組みをお客様やお取引先などの皆さまに分かりやすくお伝えするため、当社公式サイトに「品質への取り組み」ページを開設しました。
本ページでは、品質方針、品質管理体制、工場における品質対策などを公開し、品質に関する情報開示の充実と透明性の向上に努めています。
今後も積極的な情報発信を通じてステークホルダーの皆さまとの信頼関係を強化し、より一層の品質向上と企業価値の向上に取り組んでいきます。

工場における品質対策について

製品包装場入場時の異物混入防止

製品包装場へ入場する前に、ネット帽、工場内使用限定の作業服または白衣を着用し、
粘着ローラーがけ、手洗い、アルコール消毒、エアシャワーを行い異物混入を防止します。



手洗いルール等の掲示

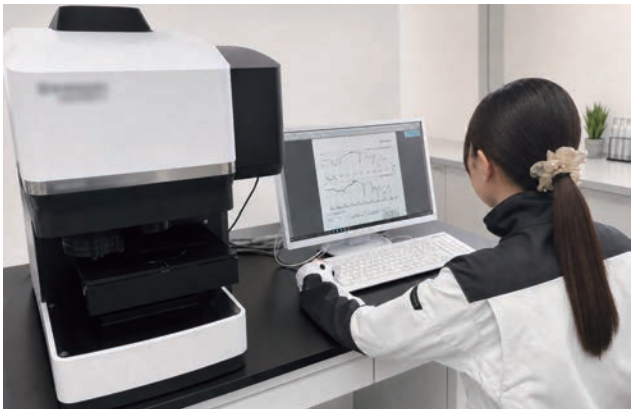
手洗い、アルコール消毒設備

エアシャワー室

品質に関する各種取組み

- 品質保証会議による工場間連携、知見共有の推進
- 品質監査（自社、委託先）の実施
- フードディフェンスの強化
- 委託先との品質保証体制の強化
- 分析・検査体制の充実

当社では、体制の強化と品質リスクの低減に向けて、工場間の連携強化、品質監査、フードディフェンスの推進、分析・検査体制の充実など、多面的な取組みを実施しています。今後も継続的な改善活動を通じて、安全・安心な製品の提供と品質レベルの向上に努めていきます。



2030年度中期目標：品質管理体制向上のための継続した人材教育

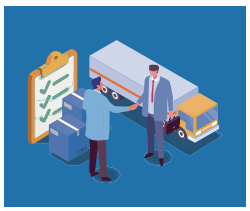
当社では、品質管理体制の高度化には従業員一人ひとりの意識と知識の向上が不可欠であると考え、継続的な人材教育に取り組んでいます。
その一環として、FSSC22000内部監査員養成講習の受講対象を、品質管理業務に直接携わる従業員にとどまらず、関連部門の従業員にも広げています。これにより、より多くの従業員が食品安全に関する基礎知識を習得し、組織全体として品質と安全に対する意識を高めることにつなげています。

FSSC22000内部監査員養成講習 新規受講者数

2023年度：11名
2024年度：12名
2025年度：24名

2030年度中期目標：お客様満足度調査の実施と調査結果の公表

当社では、お客様相談室において、お客様満足度調査を実施しています。ご指摘をいただいたお客様に対し書面によるアンケートをお願いし、その結果、過去3年間において約9割のお客様から「満足のいく対応であった」との評価をいただいています。
お客様からの声は、当社にとって学びと改善の契機であり、企業活動の質を高める上で欠かせないものです。今後も一つひとつの声に誠実に耳を傾け、改善に活かすとともに、お客様満足度の更なる向上に取り組んでいきます。



従業員やサプライチェーンの人権尊重

ステークホルダーとの対話を通じて
サプライチェーン全体の“Well-being”を実現

企業には、従業員／社員や取引先、お客様や地域社会をはじめ自社の事業活動に関わるすべての方々の人権を尊重する倫理的責任があります。これには、児童労働や強制労働の排除、安全で健康的な労働環境の維持管理が含まれます。
企業はサプライチェーン全体で人権を尊重する取組みを行うことが重要です。ウェルネオシュガーグループは、人権を尊重し、企業としての信頼を高め持続可能な発展を促進することにより、サプライチェーン全体で相互理解を深めていきたいと考えています。

調達方針について

ウェルネオシュガーグループは、すべての調達取引において、関連法令を遵守し、環境や社会への影響に配慮した、公正公平な取引を行います。
さらに、当社グループは、社会的責任や企業倫理の重要性を認識した事業活動について、サプライヤーの皆さまにもご理解いただき、ともに発展していくことを目指しています。

調達方針：https://www.wellneo-sugar.co.jp/sustainability/csr_procurement/

原料糖の調達

当社の砂糖製品は主に粗糖と呼ばれる原料糖から作られます。
オーストラリアやタイなど海外から輸入するサトウキビ原料糖と、鹿児島県や沖縄県のサトウキビ、北海道のてん菜（ビート）から作られる国内の原料糖を使用しています。
サトウキビの生産は環境への負荷が比較的小さく、収穫作業の機械化も進んでいることから、環境・労働に関する課題は改善傾向にありますが、人権・労働に関する潜在的なリスクは依然として存在することを認識しています。当社は原料糖調達先の総合商社を通じて必要な情報を収集し、継続的なモニタリングとリスク分析を行うことで、バイヤーとしての社会的責任を果たしています。

サプライチェーン連携による品質力向上活動

中部工場では調達部門主導のもと、包材メーカーおよび代理店と連携し、年1回の品質目標設定と進捗レビューを実施しています。この取組みを通じて、各社の改善活動や知見を共有することで、サプライチェーン全体での品質力向上を図っています。
2025年度は、サプライヤーとの相互理解の深化を目的に、当社包装現場の視察を行い、現場起点での課題認識と品質改善の優先事項に関する共通理解を進める活動を実施しました。

2030年度目標：サステナブル調達アンケート回収率 90%以上（一次サプライヤーを対象、隔年実施）

当社は、原料糖や包材等の購買・調達において社会的責任を果たすべく「調達方針」を定め、人権や環境にも配慮したサプライチェーンマネジメントを展開しています。上流のサプライヤーである取引先には「調達ガイドライン」を提示し、下流バイヤーも含めたバリューチェーン全体の最適化も視野に、サプライヤーの理解と協力を得るとともに、アンケート調査を実施しながら持続可能な調達を推進していきます。

2030年度目標：サプライチェーンの“Well-being”を守るための人権デューデリジェンスの実施

当社は、国連人権指導原則の一つである「人権を尊重する企業の責任」を果たすべく、「人権方針」を定め、人権尊重に関する当社の考え方や行動原則を明確にしています。人権デューデリジェンスの仕組みを通じて、事業活動が人権に及ぼす負の影響を特定し、その防止と軽減に取り組むことによりサプライチェーンの“Well-being”を守っていきます。

2030年度目標：国内原料糖メーカーやサトウキビ・てん菜生産者との相互理解の活動（2回/年）

サプライチェーン全体の“Well-being”を実現していくためには、沖縄・鹿児島の製糖事業やサトウキビの生産者の皆さまと、サプライチェーンマネジメントや人権デューデリジェンスの観点から相互理解を深め、協働していくことが重要と考えています。2025年度は、グループ会社である新光糖業株式会社と久米島製糖株式会社における農務体験を通じて、生産現場への理解と持続可能な農業への知見を深めました。
当社の事業は各地の農産物に支えられており、地域から信頼される企業を目指して活動していきます。

Sedex（Supplier Ethical Data Exchange）

当社の中部工場、関西工場および九州工場は、Sedexに B会員として加入しバイヤー会員の要請に応じて情報共有するとともに、Sedexのツールやサービスの利用を通じて責任ある倫理的なビジネスの実践を推進しています。

Sedex について

Sedexは、グローバルサプライチェーンにおける倫理的で責任ある事業慣行の実現を目指し、サプライチェーンデータを管理・共有する世界最大のプラットホームを持つ会員制組織（非営利団体）です。

未来へつながる自然との共生

気候変動対策・資源の有効利用を通じて
自然環境の“Well-being”に貢献

砂糖の製造においては、大量のエネルギーを必要とするため、省エネルギーや高効率の設備の導入は重要な課題です。また、海外および国内からの原料糖の輸送や製品の輸送については、環境に対する負荷を低減するため、効率のよい物流の実現が求められます。ウェルネオシュガーグループは自然の恵みの恩恵を受ける一方で、事業活動が自然環境に与える影響を常に自覚しながら自然と共生していくことが重要であると認識しています。

環境方針

ウェルネオシュガーグループは、事業を展開するうえで、サトウキビやてん菜といった大地の恵みや水資源をはじめ、様々な自然資本に支えられています。そこで、私たちは、地球環境に関する問題を経営上の最重要課題の一つとして認識し、自然環境の保全や生物多様性の維持に対して誠実に向き合い、社内外のステークホルダーと連携してバリューチェーン全体で環境問題に対応し、持続可能な社会の実現に向けて取り組んでいきます。

環境方針：https://www.wellneo-sugar.co.jp/sustainability/environmental_policy/

2030年度中期目標：Scope1,2におけるCO2排出量46%削減
2050年度目標：カーボンニュートラル達成

温室効果ガス排出量の測定

当社では、気候変動問題に対し、温室効果ガス排出量削減による環境負荷の低減が重要な責任であると認識し、2023年度より温室効果ガス排出量測定を開始しました。事業活動に伴い排出される温室効果ガス排出量を把握することで課題を明確化し、対策を立案・実行することで、ESG投資等への要請にも積極的に対応していきます。

Scope/カテゴリ			2025年度 CO2排出量 [t-CO2eq]	割合[%] ロケーション	割合[%] マーケット	前年度比 [%]	2024年度 CO2排出量 [t-CO2eq]	割合[%] ロケーション	割合[%] マーケット
Scope1			26,483.1	4.9%	4.9%	202.7%	13,068.1	2.6%	2.6%
Scope2（ロケーション基準）			43,659.9	8.0%	–	107.8%	40,517.3	8.2%	–
Scope2（マーケット基準）			43,936.3	–	8.1%	108.5%	40,485.7	–	8.2%
Scope3			475,323.8	87.1%	87.1%	108.1%	439,770.5	89.1%	89.1%
上流	カテゴリ1	購入した製品・サービス	394,272.4	82.9%	82.9%	106.7%	369,586.7	84.0%	84.0%
	カテゴリ2	資本財	11,349.7	2.4%	2.4%	118.3%	9,593.5	2.2%	2.2%
	カテゴリ3	Scope1,2に含まれない燃料及びエネルギー関連活動	23,612.5	5.0%	5.0%	116.0%	20,362.1	4.6%	4.6%
	カテゴリ4	輸送、配送（上流）	34,513.7	7.3%	7.3%	113.7%	30,352.6	6.9%	6.9%
	カテゴリ5	事業から出る廃棄物	1,359.5	0.3%	0.3%	93.1%	1,460.7	0.3%	0.3%
	カテゴリ6	出張	58.7	0.0%	0.0%	119.4%	49.2	0.0%	0.0%
	カテゴリ7	雇用者の通勤	273.4	0.1%	0.1%	102.4%	267.0	0.1%	0.1%
	カテゴリ8	リース資産（上流）	49.5	0.0%	0.0%	91.0%	54.4	0.0%	0.0%
下流	カテゴリ9	輸送、配送（下流）	8,966.2	1.9%	1.9%	123.8%	7,240.0	1.6%	1.6%
	カテゴリ10	販売した製品の加工	0.0	0.0%	0.0%	–	0.0	0.0%	0.0%
	カテゴリ11	販売した製品の使用	0.0	0.0%	0.0%	–	0.0	0.0%	0.0%
	カテゴリ12	販売した製品の廃棄	868.2	0.2%	0.2%	107.9%	804.3	0.2%	0.2%
	カテゴリ13	リース資産（下流）	0.0	0.0%	0.0%	–	0.0	0.0%	0.0%
	カテゴリ14	フランチャイズ	0.0	0.0%	0.0%	–	0.0	0.0%	0.0%
	カテゴリ15	投資	0.0	0.0%	0.0%	–	0.0	0.0%	0.0%
合計		Scope1+Scope2（ロケーション基準）+Scope3	545,466.8	–	–	110.6%	493,355.9	–	–
合計		Scope1+Scope2（マーケット基準）+Scope3	545,743.2	–	–	110.6%	493,324.3	–	–

※1 Scope2はGHGプロトコルに則りロケーション基準およびマーケット基準の両方を記載しています。
※2 2025年度実績では、算定範囲に九州工場が加わったため、主にScope1排出量が増加しています。

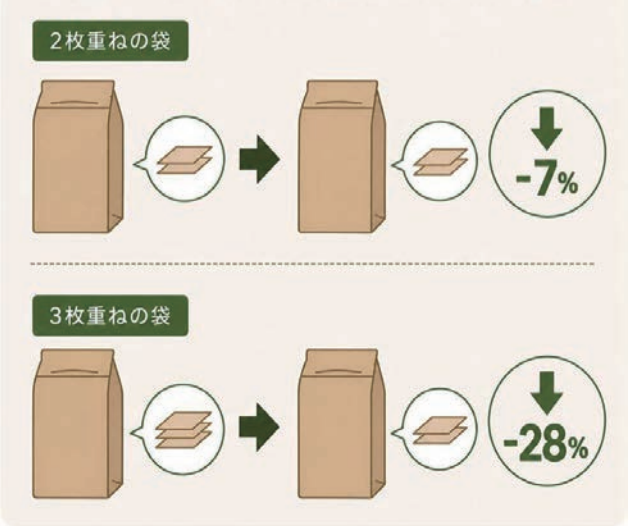
CO2排出量削減関連の取組み

包材の最適化による資源使用量削減

中部工場では、20kg・30kgなどの業務用大袋に使用するクラフト紙の仕様を見直し、資源効率の向上と環境負荷の低減に取り組みました。
用途に応じて、一部の製品について品質・強度を維持しながらクラフト紙の使用量を削減しました。

- 2枚重ねの袋：紙の厚さを見直し、約7%軽量化
- 3枚重ねの袋：2枚重ねに変更するとともに紙の厚さを最適化し、約28%軽量化

今後も設計段階から資源効率を高める取組みを推進していきます。



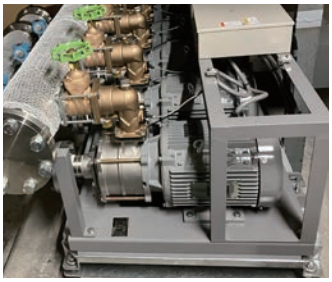
エネルギーの有効利用

九州工場では、ボイラーで発生した蒸気を減圧する際に生じる膨張エネルギーを利用した「蒸気駆動エアコンプレッサー」を導入することで、電力量の削減を図っています。さらに、空気圧縮時に発生する圧縮熱を回収し、その熱で高温水を作ってボイラーの給水などに利用することで、エネルギー使用量および温室効果ガス排出量の削減に取り組んでいます。

省エネルギー設備の導入

千葉工場では、2025年にガス給湯器を高効率機へ更新しました。更新前後で熱効率は78%から95%へ向上し、標準インプットは112kWから91.9kWへ低減しています。試算では、給湯器1台を100%運転した場合、ガス使用量を約1.73m³/h削減できる見込みです。今後も設備更新を通じてエネルギー使用量および温室効果ガス排出量の削減に取り組んでいきます。

また、工場用水の安定供給を維持するため、加圧給水装置を更新しました。設備の老朽化対策に加え、最新機種への更新により信頼性向上を図るとともに、ポンプ性能の最適化による効率的な運転を実現しています。今後も計画的な設備更新を通じて、安定操業と環境負荷低減の両立に取り組んでいきます。



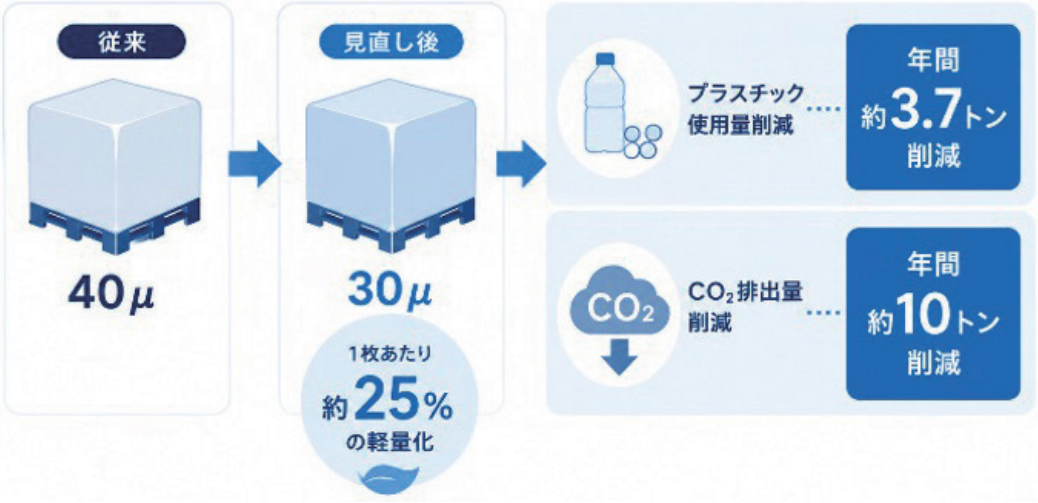
太陽光発電設備の導入

千葉工場ではPPA（Power Purchase Agreement）モデルによる太陽光発電設備を導入し、事業所で使用する一部の電力を再生可能エネルギーに置き換えています。年間約260,000kWhを発電しており、CO2排出量100トン以上の削減（化石燃料由来の電力との比較）に相当します。
他拠点における再生可能エネルギーの利用についても検討を進めています。

2030年度中期目標：プラスチック使用量50%削減

流通用資材のプラスチック削減

中部工場では、砂糖の流通に使用するパレットカバーの仕様を見直し、従来の40μから30μへの薄肉化を実施しました。本取組みにより、1枚あたり約25%の軽量化を実現しています。年間使用量に基づき、約3.7トンのプラスチック使用量削減を達成しました。さらに、プラスチック使用量削減に伴い、年間約10トンのCO2排出削減に貢献しています。本施策は新規設備投資を伴わない即効性のある資源効率改善策であり、Scope3排出量の低減および循環型資源利用の推進に寄与しています。
今後も資材仕様の最適化を通じて、環境負荷低減を継続的に推進していきます。



2030年度中期目標：廃棄物量の削減とリサイクル率98%以上の水準維持

廃棄樹脂の有効利用

中部工場では、脱色工程で使用するイオン交換樹脂について、能力低下に伴い定期的に交換を行っています。従来は交換した樹脂を産業廃棄物として処理していましたが、交換能力が残っていることから処理方法を見直し、現在は再資源化することで廃棄物の削減と資源の有効利用に取り組んでいます。

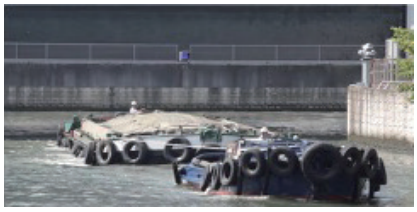
産業廃棄物のリサイクル処理推進

関西工場では、産業廃棄物の処理委託方法の見直しを行い、一部の産業廃棄物について、埋立処理から再資源化処理へ変更しました。引き続き産業廃棄物の有効活用に取り組んでいきます。

2030年度中期目標：物流における環境負荷を考慮した最適化の検討・実行

「はしけ」による原料糖輸送でCO2排出量削減

関西工場では、「はしけ」と呼ばれる小型の貨物船を利用して、原料糖の輸送を行っています。
はしけ輸送は陸上輸送に比べ、CO2排出量の少ない環境に優しい輸送手段です。



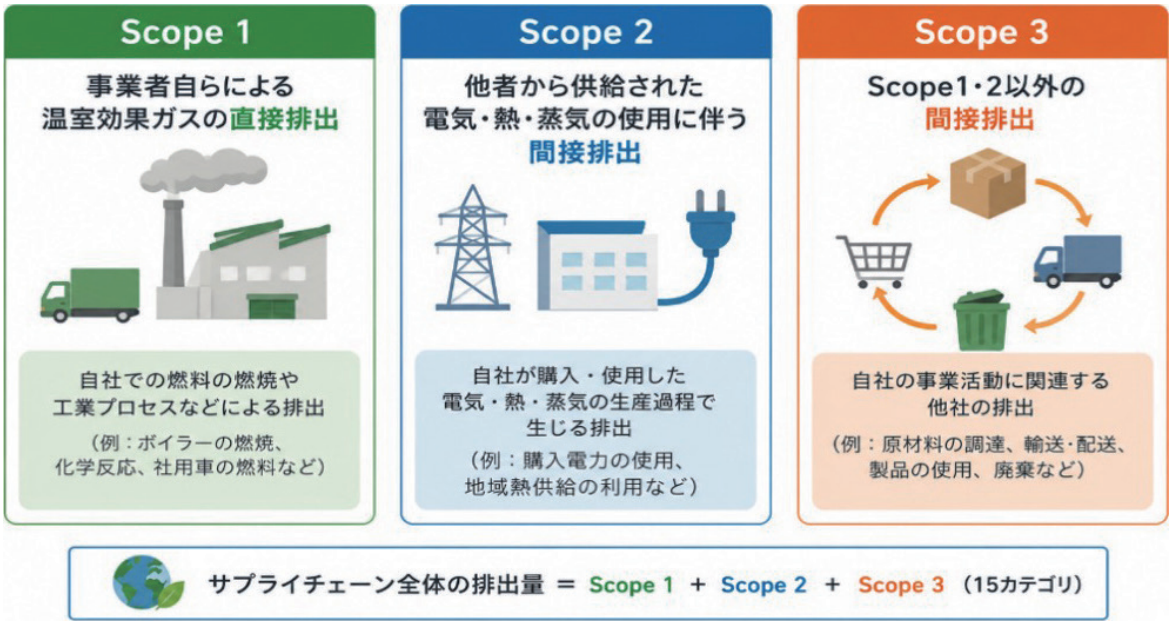
社内環境リテラシーの向上

社内勉強会の実施

当社では、サステナビリティ経営の推進および情報開示の高度化に向けて、分科会において、外部専門家を交えた社内勉強会を継続的に実施しました。2025年度は、SSBJ基準への対応を見据え、気候変動、生物多様性、資源循環やScope1,2,3の概要など、重要テーマについて理解を深めました。

2025年5月	SSBJ基準の概要、食料サプライチェーンにおけるGX関連動向
2025年7月	再生可能エネルギーの動向、環境価値・クレジット市場の動向
2025年9月	カーボンニュートラルに関する最新動向と企業に求められる対応
2025年11月	ネイチャーポジティブ（自然資本・生物多様性）に関する理解深化
	Scope1,2,3の概要、排出量算定方法の理解
2026年1月	サーキュラーエコノミーに関する動向と事業機会の検討

これらの活動を通じて、環境課題に関する知識の向上を図るとともに、将来的な事業機会やリスクの把握、サステナビリティ情報開示の充実に向けた社内体制の強化を進めています。



気候関連情報開示およびイニシアティブ参画

気候関連財務情報開示タスクフォース

当社は、気候変動問題を最も注力すべき領域としており、その実践として、気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）の提言に沿った適切な情報開示を行っています。

【シナリオ分析】
- 気候変動（平均気温の変化）に伴う、精製糖事業における想定されるリスクの洗い出し
- 気候変動リスク軽減への取組み
- 気候変動リスク軽減を事業機会とするための取組み

気候変動イニシアティブへの参画

2019年から気候変動イニシアティブ（Japan Climate Initiative）に参加しています。気候変動イニシアティブは、一般社団法人 CDP Worldwide-Japan、公益財団法人世界自然保護基金（WWFジャパン）、公益財団法人自然エネルギー財団が事務局を担当。日本において企業や自治体、NGOなどの情報発信、情報交換を強化し、脱炭素社会の実現を目指すネットワークです。

当社は、気候変動イニシアティブが参加要件とするアクション（2050年までのGHG実質排出量ゼロへのチャレンジ）に賛同しています。

地域とのつながり・社会貢献活動

工場周辺の清掃・パトロール活動

当社では、地域社会の一員として、工場周辺の環境美化や安全なまちづくりに取り組んでいます。千葉工場では毎月、関西工場では3か月に1回、工場周辺の清掃活動を行っています。九州工場では、県主催の細島港一斉清掃活動に毎年参加しています。また、中部工場では年2回、近隣企業の皆さまと連携し、防犯・防災パトロールを実施しています。今後も、地域の皆さまとのつながりを大切にしながら、継続的な活動を通じて地域社会への貢献に努めてまいります。

クルルふれあいコンサート（中部工場）

中部工場では、お子様連れの家族でもご参加いただける音楽イベントとして「クルルふれあいコンサート」を開催しています。宗次ホールと連携し、愛知県を中心に活動する若手演奏家の活躍の場ともなっています。また、コンサートに参加した方々にはお砂糖クイズや砂糖の味比べ、サトウキビの実物展示など、砂糖工場ならではの体験を楽しんでいただいています。

こども食堂支援

当社では、一般社団法人全国食支援活動協力会を通じて、全国のこども食堂や地域食堂へ当社製品を無償で提供しています。製品の配送にあたっては、物流部門と連携し、当社の物流ネットワークを活用することで、協力会からの要請にきめ細かく対応しています。これからも、食を通じた地域支援の一助となるよう、継続的に支援活動に取り組んでまいります。

サトウキビの栽培・収穫

中部工場では、工場敷地内でサトウキビを栽培しています。例年秋には、地域の皆さま、社員とその家族とともに、収穫期を迎えたサトウキビの刈り取りを行い、砂糖づくりへの理解を深める機会として親しまれています。こうした活動を通じて、砂糖が天然由来の安全な食品であることを身近に感じていただけるよう努めています。なお、2025年度は悪天候により、地域の皆さまとの収穫体験は実施できませんでしたが、収穫したサトウキビを動物園などへ寄付し、有効活用しました。

ガバナンス

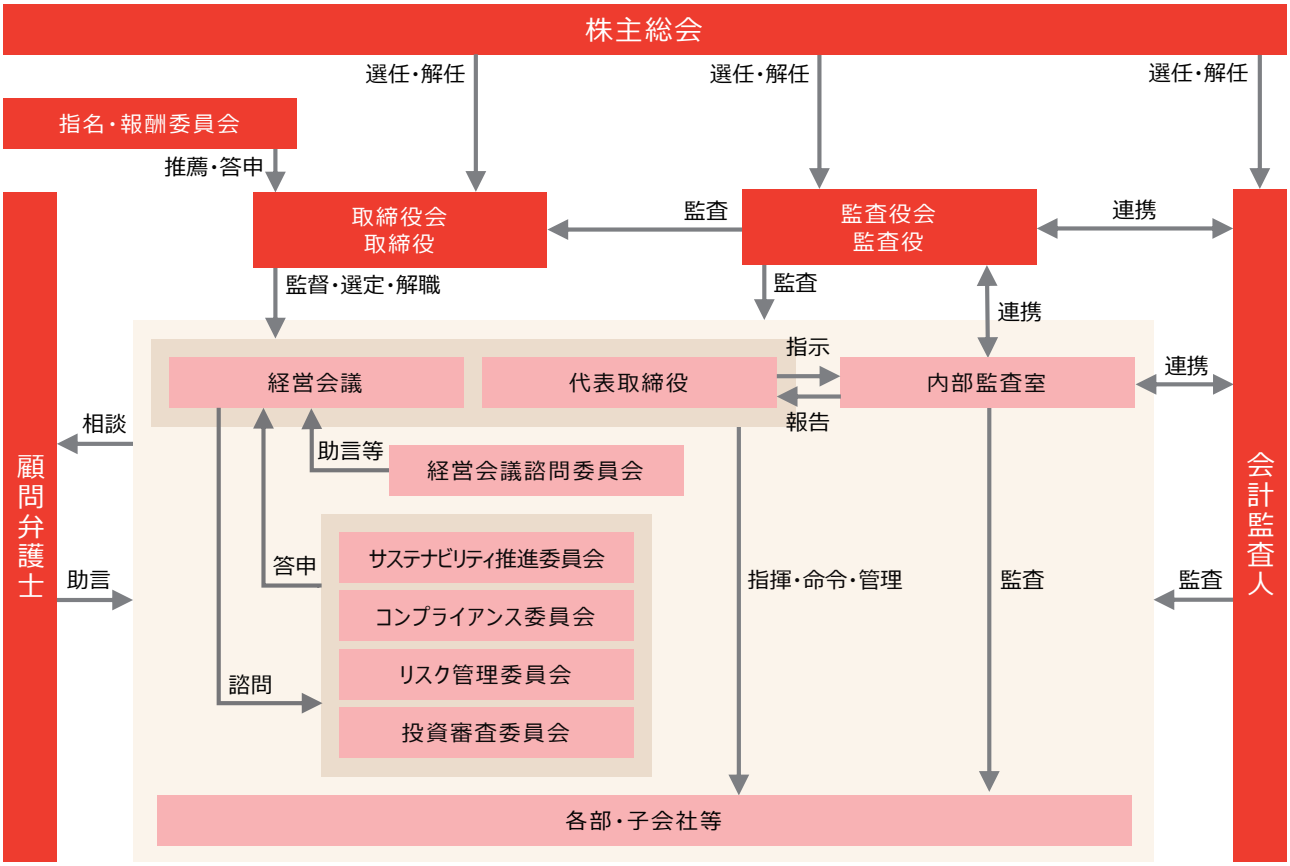
ガバナンス

コーポレート・ガバナンス

ウェルネオシュガーは、株主をはじめ顧客・従業員・地域社会等のステークホルダーから信頼、支持され続けるためには、中長期的な企業価値の向上に努めるとともに、社会的な責任を果たし、持続的な成長、発展を遂げていくことが重要であると認識し、これを実現するために、常に最良のコーポレート・ガバナンスを追求し、その充実に継続的に取り組むことを基本方針としています。
当社は、持続的な成長および中長期的な企業価値の向上を図るためには、公正で透明性の高い経営を実践するとともに、保有する経営資源を有効に活用し、経営環境の変化に迅速に対応し果断な意思決定ができる組織体制を構築、維持することが重要であると考え、次に掲げる基本的な考え方に沿って、コーポレート・ガバナンスの充実に取り組んでいます。

①株主の権利および平等性を確保します。
②ステークホルダーの利益を考慮し、ステークホルダーと適切に協働します。
③会社情報を適切に開示し、透明性を確保します。
④取締役、監査役、独立役員のそれぞれの役割および責務を認識し、その実効化を図ります。
⑤中長期的な株主の利益と合致する投資方針を有する株主との間で建設的な対話を行います。

現在、取締役・取締役会と監査役・監査役会を中心とした体制を構築しており、取締役会において経営の重要な事項の審議・決定、職務執行状況の監督を行い、監査役会において代表取締役および業務執行取締役の職務の執行を監査することにより、経営監視機能の充実を図っています。
さらに、取締役のうち5名を社外取締役とし、またそのうち3名を独立社外取締役とすることにより、経営に多様な視点を取り入れるとともに、経営の透明性、公正性を向上させています。また、監査役のうち2名を公認会計士や弁護士などの専門的な知見を有する社外監査役にすることにより、独立した立場からの監査を確保し、監査機能の強化を図っています。



ガバナンス

コンプライアンス

ウェルネオシュガーでは、取締役等および使用人の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制の基礎として、「行動規範・行動指針」および「コンプライアンス規程」を定め、コンプライアンス委員会を設置し、コンプライアンス体制の確立を図っています。また、内部監査により、コンプライアンスの状況の監査も行っています。

リスクマネジメント

ウェルネオシュガーでは、リスク管理体制の基礎となる「リスク管理規程」を定め、全社横断的なリスク管理のためのリスク管理委員会を設置し、個々のリスクについての管理担当部を定め、同規程に則ったリスク管理体制を確立しています。

人権方針

ウェルネオシュガーグループは、事業活動を通じて、持続可能な社会の発展に貢献することを行動規範の中核におき、サステナビリティ経営に取り組んでいます。私たちは、企業に求められる社会的責任として人権を尊重し、あらゆる人々が共生、協働できる社会および差別のない社会の創出に寄与し、社会とともに持続的に成長していくことを目指します。
ウェルネオシュガーグループは、「国際人権章典」（国連）および「労働における基本的原則および権利に関する宣言」（ILO宣言）を支持し、国連の定める「ビジネスと人権に関する指導原則」に則って活動します。

人権方針：https://www.wellneo-sugar.co.jp/sustainability/human_rights/

人権の尊重

ウェルネオシュガーグループは、人権に関する法令と社会規範を遵守します。労働における基本的原則および権利を尊重し、サプライチェーンにおける児童労働や強制労働を排除し、事業活動における人権侵害を行わず加担することもないよう、社内啓発に努めています。また、すべての従業員がその人としての尊厳が守られ、平等な機会を与えられる職場環境を確保するために、以下のような取組みを実施しています。

1 従業員研修の実施

当社では年1回、人権に関する研修を実施し、従業員が人権の重要性や自社の方針について理解を深める機会を設けています。研修は全従業員を対象に行い、従業員の人権意識の向上につながる取組みを推進しています。

2 ハラスメント対策

職場におけるハラスメント防止規程、ハラスメント対応の基本方針および内部通報取扱規程の制定、第三者機関を窓口とする外部相談窓口を設置し、従業員が安心して仕事に従事できる職場環境づくりに取り組んでいます。また、社内報や社内掲示板等で人権リスクに関する情報を共有し、全社的な人権意識の向上を図っています。さらには、社内の人権に関する取組みを定期的に評価し、継続的改善に努めています。

安全衛生

ウェルネオシュガーグループでは、安全で衛生的な職場環境の実現に向け、日々の整理整頓や清掃の徹底、安全衛生に関する研修の実施など、基本的な取組みを継続しています。 さらに、衛生委員会による啓発活動や環境改善、安全衛生規則の整備を通じて災害予防と衛生管理の強化を進めています。 工場ではリスクアセスメントを実施し、職場に潜む危険要因や対策の状況を把握することで、災害につながるリスクを減らし、労働災害のない職場づくりを目指しています。 また、年2回の安全管理情報連絡会では、労働災害やヒヤリハット事例を共有し、職場全体の安全意識を高める取組みを続けています。

ウェルネオシュガーデータ

ウェルネオシュガーデータ

【環　境】

指　標			2023年度	2024年度	2025年度	備　考
エネルギー						
CO2排出量（全事業所）	※1	t-CO2	49,621	53,554	70,630	Scope2: マーケット基準
本社部門（本社・千葉地区・営業所）	※1	t-CO2	347	352	492	Scope1,2
中部工場	※1	t-CO2	34,229	37,085	37,424	Scope1,2
関西工場	※1	t-CO2	15,045	16,117	16,494	Scope1,2
九州工場	※1	t-CO2	−	−	16,221	Scope1,2
オフィスエネルギー使用量		GJ	1,398	1,387	1,384	
ガソリン使用量		KL	34	24	28	
水資源						
使用量（計）	※2	千㎥	802	837	1,552	
上水	※2	千㎥	48	56	120	
工業用水	※2	千㎥	754	781	1,250	
排出量	※2	千㎥	614	645	1,178	放流先：海、下水
排出量						
廃棄物量	※2	t	5,277	5,883	7,189	
埋立・焼却量	※2	t	59	30	290	
廃棄物リサイクル率	※2	%	98.8	98.6	96.4	
オフィス廃棄物量（本社・千葉地区）		t	8.1	11.8	28.3	
環境関連の罰金・違約金の総額	※2	円	0	0	0	
その他						
ハイブリット車両比率（全事業所）		%	100.0	100.0	97.6	

※1　上記CO2排出量は、自社排出（サプライチェーン排出量、Scope1,2）を集計したもので、その他の間接排出（Scope3）は含みません。
※2　2023年度、2024年度：中部工場、関西工場
　　2025年度：中部工場、関西工場、九州工場

【役　員】

指　標	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
取締役会				
取締役数	9　人	9　人	9　人	9　人
社内	4　人	4　人	4　人	4　人
男性	4　人	4　人	4　人	4　人
女性	0　人	0　人	0　人	0　人
社外	5　人	5　人	5　人	5　人
男性	4　人	4　人	4　人	4　人
女性	1　人	1　人	1　人	1　人
取締役会開催回数	17　回	16　回	16　回	16　回

指　標	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
監査役				
監査役数	4　人	4　人	4　人	4　人
男性	3　人	3　人	3　人	2　人
女性	1　人	1　人	1　人	2　人

ウェルネオシュガーデータ

【従業員】

指　標	2024年度	2025年度	備　考
雇用			
従業員数	377　人	450　人	
（うち臨時従業員数）	0　人	0　人	
平均年齢	43.3　歳	42.3　歳	
平均勤続年数	18.4　年	17.8　年	
平均年間給与	7,717　千円	7,934　千円	
新卒採用人数（合計）	11　人	8　人	
新卒採用人数（男性）	3　人	3　人	
新卒採用人数（女性）	8　人	5　人	
新卒採用者定着率	100.0　%	100.0　%	入社3年後定着率
キャリア採用人数（合計）	8　人	16　人	
キャリア採用人数（男性）	5　人	12　人	
キャリア採用人数（女性）	3　人	4　人	
全体採用人数に対するキャリア採用人数の割合	42.1　%	59.2　%	※改正労働施策総合推進法対応
採用におけるコスト	19,607　千円	37,266　千円	
離職率	0.9　%	1.7　%	定年退職、嘱託期間満了解嘱除く
多様性			
社員における女性の割合	30.4　%	25.5　%	
管理職社員における女性の割合	7.0　%	8.6　%	
定年再雇用率	100.0　%	75.0　%	
障がい者雇用率	2.13　%	2.23　%	
職場環境			
一般社員の実労働時間（年間）	1,881.2　時間	1,852.3　時間	
一般社員の所定外時間労働（月平均）	18.8　時間	18.5　時間	
有給休暇取得率	58.4　%	69.1　%	
育児休業取得者数（合計）	15　人	13　人	
育児休業取得者数（男性）	11　人	8　人	
育児休業取得者数（女性）	4　人	7　人	
育児短時間勤務者数	7　人	6　人	
教育・研修			
教育・研修費	10,933　千円	17,263　千円	
教育・研修費（一人当たり）	29　千円	38.36　千円	
労働安全衛生			
労働災害発生件数	0　件	0　件	

教育研修制度

社内外の教育研修を通じて従業員の能力開発を行っています。
また従業員が講師となる社内勉強会「ネオスタ」を開催しています。

社内研修	新入社員研修、フォローアップ研修、階層別研修、人権啓発研修、コンプライアンス研修、セキュリティ研修、ＤＥ＆Ｉ研修、労災防止研修、危険体感研修、その他工場独自研修
外部研修	スキル研修（会計・財務、生産管理・品質管理、営業・マーケティング他）
能力開発	自己啓発支援制度（通信教育・語学学校通学・資格取得試験・書籍購入等の費用援助／オンライン英会話受講料全額補助）他

福利厚生

ウェルネオシュガーグループでは、様々な角度から従業員の生活を支援できるよう、福利厚生の充実に取り組んでいます。

社会保険完備（健康保険、厚生年金保険、雇用保険、労災保険）／
独身者用・交替勤務者用・転勤者用借上社宅制度／住宅融資制度、社員持株制度、財形貯蓄制度、確定給付・確定拠出企業年金／
会員制福利厚生倶楽部、グループ会社のスポーツクラブ利用／
クラブ活動、社内イベントの開催／福利厚生施設・保険組合保養所の利用、他

ウェルネオシュガーデータ

会　社　概　要

会社概要　2026年10月1日現在

商　　号	ウェルネオシュガー株式会社　WELLNEO SUGAR Co., Ltd.
本店所在地	〒103-8536　東京都中央区日本橋小網町14-1　住生日本橋小網町ビル
代 表 者	代表取締役会長　仲野　真司／代表取締役社長　山本　貢司
設　　立	2011年10月3日（2023年1月1日　日新製糖株式会社より商号変更）
事業内容	砂糖・機能性素材の製造販売、フィットネスクラブの運営等
資 本 金	70億円

グループ会社一覧（連結子会社）

社　名	現住所	事業内容
トーハン株式会社	〒103-0016 東京都中央区日本橋小網町14-1 住生日本橋小網町ビル	砂糖および機能素材の販売
新豊食品株式会社	〒261-0002 千葉県千葉市美浜区新港52	砂糖等の加工および包装
日新サービス株式会社	〒103-0016 東京都中央区日本橋小網町14-1 住生日本橋小網町ビル	合成樹脂等の販売
シー・アンド・エス・サービス株式会社	〒447-0834 愛知県碧南市玉津浦町3番地 （当社中部工場構内）	中部工場内の設備点検、管理
ツキオカフィルム製薬株式会社	〒509-0109 岐阜県各務原市テクノプラザ2-11	箔押製品・食用純金箔製品・可食フィルム製品の開発、製造、販売
株式会社日新ウエルネス	〒103-0016 東京都中央区日本橋小網町14-1 住生日本橋小網町ビル	フィットネスクラブの運営
ニューポート産業株式会社	〒261-0002 千葉県千葉市美浜区新港50	冷蔵倉庫・港湾運送業の運営

ウェルネオシュガーの事業拠点

サステナビリティ報告書

本報告書では、ウェルネオシュガーグループのサステナビリティ経営について、「5つのマテリアリティ」を軸に、これまでの取組み、成果、今後の方向性を整理してご報告しました。
ステークホルダーの皆さまに、ウェルネオシュガーグループの考え方と事業活動をご理解いただく一助となれば幸いです。

今後も、ステークホルダーの皆さまとの対話を大切にしながら、社会課題の解決と社会的価値・経済的価値の両立に取り組んでまいります。
グループ一丸となってサステナビリティ経営を推進し、持続的な企業価値の向上を図ってまいります。

[編集方針]

ウェルネオシュガー株式会社
対象期間：2025年4月～2026年3月（一部直近の活動を含みます）

パーパス・ビジョン・バリュー

PURPOSE・VISION・VALUES

パーパス〈存在意義〉 PURPOSE

糖のチカラと可能性を切り拓き “Well-being” を実現する

ビジョン〈目指す姿〉 VISION

心と体に「いいね」を

口にした瞬間広がるしあわせ、体が喜ぶひととき。
“いいね！”と誰もが微笑む瞬間のために、私たちは挑戦し続けます。

おいしさと健康、自然との調和、新しい食文化。
多様なニーズに応え、糖のチカラと可能性で、
“NEO”な答えを創り出すことを約束します。

砂糖だけではない会社、それがウェルネオシュガーです。

バリュー〈行動基準〉 VALUES

挑　戦	多様性	持続可能性
誰もが、考え、進歩し続ける主人公へ	違いを強みに変える企業文化へ	責任ある事業活動で選ばれ続ける企業へ
「いいね」に向けて、一歩踏み出そう お客様の期待を、超えよう	一人ひとりに、寄り添おう 異なるアイディアを、掛け合わせよう	信頼を、積み重ねよう 次世代のための、選択をしよう

ウェルネオシュガー株式会社

＜本報告書に関するお問い合わせ先＞

〒103-8536　東京都中央区日本橋小網町14-1

ウェルネオシュガー株式会社

TEL　03-3668-1120（サステナビリティ推進室）

表紙：松成 真理子（イラストレーター・絵本作家）